

具体的な取組

企画性	学校全体の防災への意識向上を図り、避難訓練を実施。 工夫した点としては事前、事後アンケートを取ったこと。 また、普段の状態の避難でなく火災という設定で避難経路を制限した。
対象	避難訓練は全校生徒を対象に行った。

1. テーマ 防災への意識向上

防災セミナー開始当初、半田東高校では避難訓練を3年間行っていないことから避難経路等防災に関する意識が低いと考えたため、このテーマを設定した。

2. 文化祭

文化祭では、生徒に防災についてもっと興味をもってもらうために防災コーナーを設置した。

コーナーの内容は、本校生徒が新聞紙を使った防災グッズを作れるようになってもらえるように実際に作り方と新聞紙を置いておき、誰でも作れるような場所を設置した。工作などの簡単な分野から防災に関わって、興味をもってもらおうと考えた。また他にも、過去に地震が起こったときのニュースの映像を流したりして、自然災害を身近に思ってもらえるようにした。そして文化祭後に再度アンケートをとって文化祭前にとったアンケートと結果を比較すると、文化祭前に得られた結果より文化祭後に得られた結果の方が多く、防災グッズを作れる人が増えた。

文化祭で行った防災コーナーによって防災グッズの作り方を覚えてくれた生徒が増え、生徒全体の防災意識が高まったと言える。

3. 避難訓練

半田東高校の生徒の防災意識向上や避難経路の確認、実際災害や火災が起きた時に迅速に動けるようにするために避難訓練を実施した。

家庭科室で火災が発生したという想定で考査が終了後の緊張感のない中、家庭科室がある側の3階西側階段及び渡り廊下をシャッターで封鎖した。なお、2年生は全クラスとも、先生がいない状態で行った。その後、防災セミナーの担当生徒が体育館への避難後に防災セミナーについての活動について話し、防災意識の向上について呼びかけた

① 実施結果

- ・火災発生を知らせる放送があってから体育館に全員集合、点呼完了するまで約13分かった。
- ・避難中に喋ったり、ハンカチで口を押えていなかったり、避難経路を間違えている人がいた。

4. アンケート

避難訓練の実施前後に防災の意識に重点を置いたアンケートを実施。

Q1 あなたは校庭までの避難経路を把握していますか？

今回の避難訓練を行ったことで、教室から校庭までの避難経路を見直してくれた生徒が増えたことが分かった。

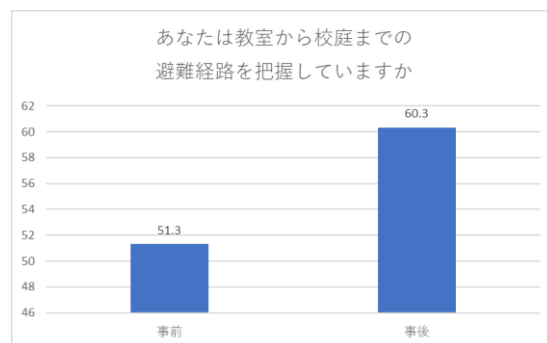


図1 Q1の質問に「はい」と回答した人の割合

Q2 自分の住んでいる市町村のハザードマップを見たことがありますか？

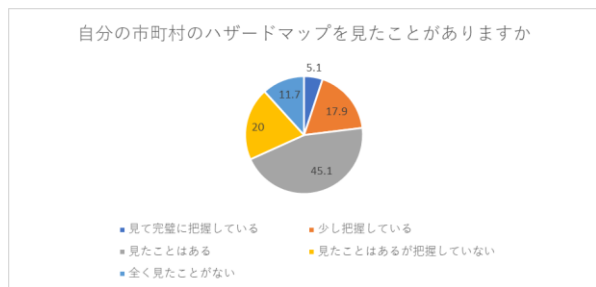


図2 Q2 (事前)

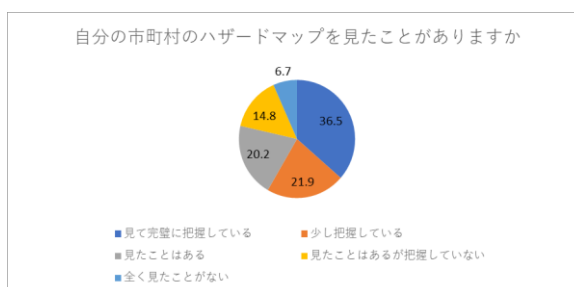


図3 Q2 (事後)

避難訓練後に呼びかけたハザードマップの確認は「見た」人は78%を超え、事前アンケートと比較しても10%向上した。

Q3 (過去の) 避難訓練は自分のためになりましたか？

(事前アンケートの質問は今まで体験してきた避難訓練が自分のためになっているか、事後アンケートの質問は今回行った避難訓練が自分のためになったかを聞いた)

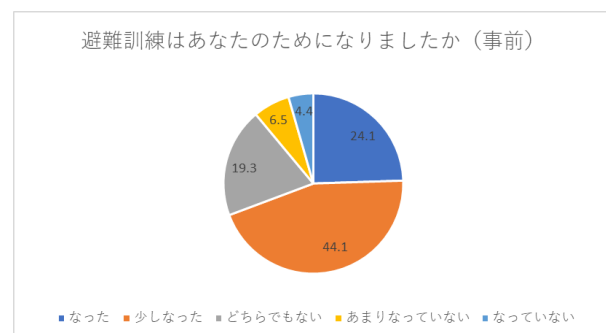


図4 Q3 (事前)

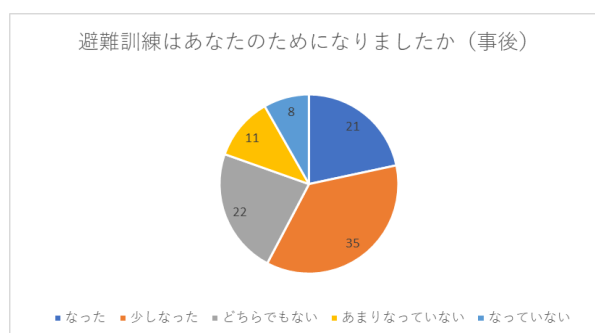


図5 Q3 (事後)

自分のためになったと答えた割合が12%ほど低下した。考えられる要因としては、経路どおりの避難でなかったことや避難に時間がかかりすぎて現実味が失われてしまったことが挙げられる。

効果と課題

【効果】

防災グッズの展示をしたことによって、作れる人がわずかに増えたがそれ以外に効果は顕著にみられなかった。また、訓練後に避難経路の再確認を呼び掛けたため、避難経路を把握している人の割合が11%増加した。また、アンケートの「あなたは防災に興味がありますか」という質問に対し「興味がある」と答えた人が15%増加した。

【課題】

文化祭の防災展示については展示が退屈でつまらないものが多かったため、アンケートの結果から展示の効果が少なかった。注目度を高めて楽しみながら学んでもらうためにも、体験型のブースや、実物を触れる企画にする。

避難訓練は、ほとんどの人が避難経路を把握していないことがわかった。避難経路を示す紙の掲示場所を人目の付くところ(昇降口など)に変える必要がある。また、教室の変わる新年度に全員が確認する機会を作ることや、避難にかかる時間が長く、実際に災害が起きた時の行動が懸念されることから、避難訓練の回数を増やし、時間を比較できるようにすることが考えられる。

生徒が避難経路を正しく把握することで、実際に災害が起きた時に冷静に行動できるようにする。